

1 日本の施設園芸の面積等

農水省資料

- 野菜などの園芸作物は長期貯蔵ができないため、周年的に安定供給するためには施設園芸が不可欠。
- 施設園芸の種類としては、トンネルやハウス等があるが、近年は高度な環境制御機能を有した植物工場なども見られる。
- ガラス室及びハウスは、約4万2千2百ha設置(平成30年)されており、近年減少傾向。このうち、野菜が約7割。
- 一方、施設園芸農家数は、高齢化等により減少傾向にあり、野菜作が10万7千戸、花き作が2万5千戸。

○施設園芸の様々な形態



トンネル



パイプハウス



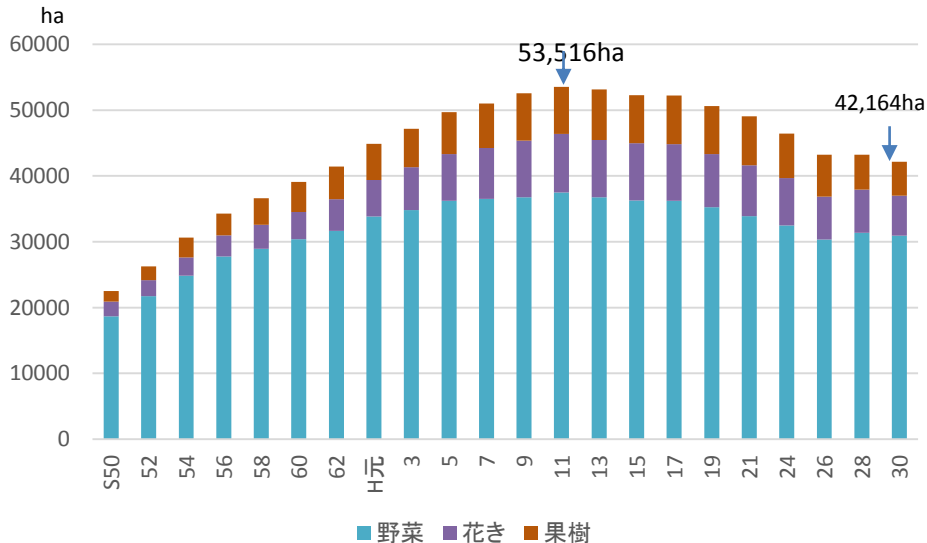
鉄骨ハウス



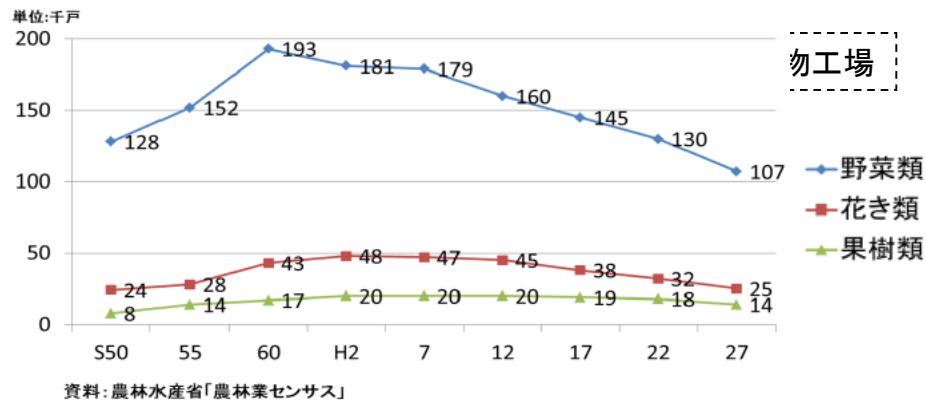
太陽光利用型植物工場



○ガラス室及びハウスの設置実面積の推移



○施設園芸農家(販売農家)数の推移



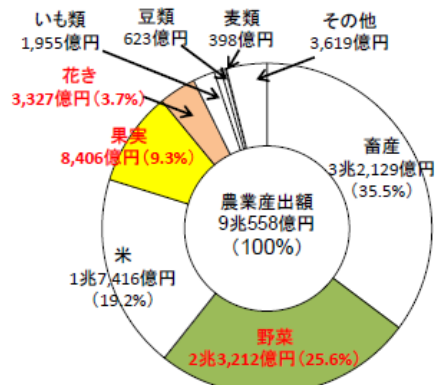
資料:農林水産省「農林業センサス」

2 施設園芸の重要性

○野菜・果樹・花きといった園芸作物は、生産面では、我が国の農業産出額の約4割を占めるとともに、自らの工夫で高付加価値化しやすいことなどから、新規就農者の85%が中心作物として選択する重要かつ魅力ある分野。

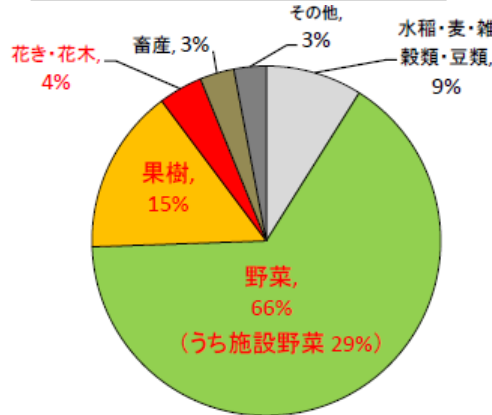
○消費面では、食料の支出金額に占める割合が最も高い、国民消費生活上重要な品目。また、消費者ニーズに応えるためには、施設園芸による周年安定供給が必須。

○我が国の農業産出額



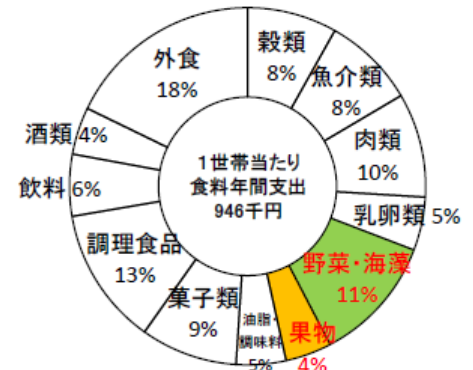
資料:農林水産省「生産農業所得統計(H30)」

○新規就農時の中心作物



資料:全国新規就農相談センター「新規就農者の就農実態に関する調査結果(H28)」

○1世帯当たりの食料の年間支出額

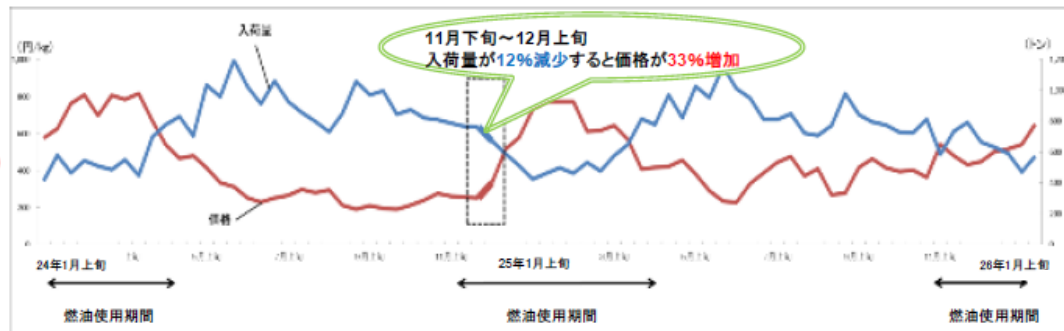


資料:総務省「家計調査(H30)」

○トマトの産地リレー出荷の状況



○東京都中央卸売市場におけるピーマンの卸売価格及び入荷量の推移



3 園芸用施設構造別設置面積

(単位:ha、%)

区 分	平成19年	平成30年	30年/19年
ガラス室+ハウス	50,608	42,164	83.3
うち鉄骨	10,207	9,898	97.0
金属パイプ等	40,401	32,266	79.9
ガラス室	2,157	1,595	73.9
うち 野菜	873	764	87.5
花き	1,145	820	71.6
果樹	139	11	7.9
ハウス	48,451	40,569	83.7
うち 野菜	34,364	30,159	87.8
花き	6,935	5,242	75.6
果樹	7,153	5,168	72.2

資料:農林水産省「園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査」

4 園芸作物における品目別施設設置面積と栽培延べ面積(平成30年、ha)

野菜		花き		果樹	
設置面積計	30,924	設置面積計	6,062	設置面積計	5,179
栽培延べ面積計	42,489	栽培延べ面積計	7,117	栽培延べ面積計	5,185
トマト	6,974	きく	2,423	デラウェア	666
(うちミニトマト)	(1,616)	ばら	275	巨峰	664
ほうれんそう	6,140	トルコギキョウ	403	その他ぶどう	1,342
いちご	3,697	カーネーション	221	うんしゅうみかん	375
きゅうり	3,343	ゆり(切り花)	487	その他かんきつ類	918
メロン	2,919	スターチス	148	おうとう	282
すいか	1,895	鉢物類	1,439	もも	49
ねぎ	1,895			びわ	48
アスパラガス	1,104			かき	42
なす	1,088			いちじく	93
ピーマン	906			なし	174
にら	801			マンゴー	407

資料：農林水産省「園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査」

5 加温装置等と養液栽培施設の普及状況

● 省エネルギー装置等の普及状況(平成30年)

区 分	面 積(ha)	⑤に対する%
① 加温装置のあるもの	17,388	41.2
①のうち高度環境制御装置のあるもの	1,134	2.7
② 炭酸ガス発生装置のあるもの	1,742	4.1
③ 2層以上のカーテン装置のあるもの	5,570	13.2
④ 換気扇、循環扇のあるもの	6,796	16.1
⑤ ガラス室ハウス設置面積合計	42,164	—

資料:農林水産省「園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査」

● 養液栽培施設の方式別設置面積

(野菜用+花き用)

(単位:ha、%)

区 分	平成19年	平成30年	30年/19年
水 耕	450	516	114.7%
固形培地耕	1,035	1,032	99.7%
そ の 他	201	378	188.1%
計	1,686	1,927	114.3%

資料:農林水産省「園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査」

6 大規模施設園芸及び植物工場の施設数の動向

調査時期	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.2	2017.2	2018.2	2019.2	2020.2
太陽光型	13	83	151	185	195	79	126	158	160	164
太陽光・ 人工光併 用型	16	21	28	33	33	36	31	32	30	35
人工光型	64	106	125	165	185	191	197	183	202	187

資料：(一社)日本施設園芸協会「平成31年度次世代施設園芸地域展開促進
事業報告書」

- (注)・2016年3月以降の「太陽型」は、施設面積が概ね1ha以上で
養液栽培装置を有する施設(大規模施設園芸)に限る。
・2019年度の「人工光型」は、研究開発や展示目的当のものも
含まれていた可能性あり。

(一社) 日本施設園芸協会の概要①

- 設 立 : 昭和47年
- 会 長 : 鈴木 秀典 株式会社大仙 会長
- 目 的 : 施設園芸経営の近代化と優良な施設園芸資材の普及を図るため、必要な調査研究、情報提供等を行う。
- 構成員 : ハウスの建築メーカー、フィルム、暖房装置、養液栽培、種苗等の各種施設園芸資材のメーカー等 78社
他に、賛助会員11団体、個人会員多数

(一社)日本施設園芸協会の概要②

1 調査研究事業

- (1)園芸用施設安全構造基準の作成
- (2)海外・国内先進地の施設園芸の調査

2 情報提供事業

行政情報、技術情報、業界の動き等、施設園芸に関する情報を会員や施設園芸関係者に提供、
機関誌「施設と園芸」を年4回発行 等

3 施設園芸技術講座・施設園芸技術指導士資格の認定

4 セミナー・技術展

- (1)**施設園芸・植物工場展(GPEC、2021年7月愛知で開催予定)**
- (2)施設園芸の新技术等のセミナー及び展示会

(一社)日本施設園芸協会の概要③

5 農業用使用済プラスチック対策の推進

6 施設の構造診断

7 コンサルタント

8 国の補助・受託事業の実施

- ・次世代施設園芸導入加速化支援事業全国推進事業
- ・施設園芸等燃油価格高騰対策
- ・園芸作物生産転換促進事業全国推進事業(野菜流通カット協議会)

9 関係協議会の事務局業務

(1)野菜流通カット協議会

(2)青果物選果予冷施設協議会